



復興の始発駅、JR女川駅・ゆぼっぼ開業

電源地域 振興トピックス

町の活性化と“再生”に向けた各地の取り組み

このコーナーでは電源地域各地の地域振興に向けた話題を取り上げています。今回は、東日本大震災から4年、宮城県女川町の「まちびらき」の開催と福島県が主催するディスティネーション・キャンペーン、それに石川県志賀町の『西能登おもてなし丼』の話題をご紹介します。



新 生女川が「まちびらき」を開催

“あの日”から4年、女川町はいよいよ3月21日に、女川駅周辺の「まちびらき」を迎えることになった。小誌が発行する頃には、すでに記念式典を終えているので、

その様子を伝えることができないのは残念だが、復興に向けて、幾多の辛苦に耐えながら歩んできた、女川町民の皆さんの思いが、ひとつの形になって現れるのは大変喜ばしく、お祝いを申し上げたい。今回の「まちびらき」

宮城県女川町

は、中心部の復興事業で最初の大型施設となる、温泉温浴施設『ゆぼっぼ』とJR女川駅の開業を記念したもの。



大震災以来不通となっていたJR石巻線浦宿〜女川間が運行再開し、女川駅も再建され、かつては駅に併設されていた『ゆぼっぼ』も新たに生まれ変わった。その周辺も、民間施設である『フューチャーセンター』や水産業体験館『あがいんステーション』、『地域交流センター』や『物

産センター』などが、これ以降、続々と整備されていく。

駅前広場から女川湾に続く、プロムナードに隣接するテナント型の商店街には物販、サービス、飲食等の様々な業種の店舗が入居予定。年末には新しい町が生まれることになる。今回オープンした、女川駅と『ゆぼっぼ』の一体型施設は、ウミネコが羽ばたく様子をイメージした曲線を描く大屋根が特徴。世界的建築家の坂茂氏が設計した。海へ続くプロムナードに合わせ、新しい町のシンボルとなる。施設は鉄骨造り一部木造3階建てで、延べ面積は899.51㎡。1階は駅機能と温泉施設の受付、2階が浴場、3階には海を見下ろす展望デッキを設けて、誰もが無料で女川湾と町を一望できるものとなっている。

2階の浴室壁面には、日本画家の千住博氏が原画を手掛けたタイル画、休憩室には、全国から寄せられた花のイラストと千住氏の絵を融合した、デザイナーの水戸岡鋭治氏による1枚の巨大なタイル画

が彩る。アートの持つ創造性で、地域コミュニティの再生と地域活性化を図る狙いとなっている。女川町の復興事業は、瓦礫撤去に始まり、高台の切り土造成と、被災地低地部エリアの盛り土造成、インフラ整備と非常に大規模なものだが、複数の事業を同時進行で行うという、非常にタイトなスケジュールで行われている。この間、住民や行政の努力は大変なものかと推測されるが、今回の「まちびらき」によって、大きく前進し、新しく生まれ変わる女川町に、改めて拍手を送りたい。



女川町にぎわいの拠点



プロムナード(遊歩道)を核に、“街”がつけられる



〔上〕見栄えの良さを図る「アドバイス&撮影会」を実施
〔下〕町民全体で「おもてなし」の具現化を学び・検討・推進する研修会



西 能登おもてなし井で、町のさらなる知名度アップを

石川県志賀町

石川県志賀町では、『西能登おもてなし井』という新たな産品開発を進めている。これは、町産の食材を3分の1以上使う条件のフードメニューで、町の観光協会が認定するもの。町内18の飲食店などが、合計40品目を提供している。

資源エネルギー庁の『地域のじまんづくりプロジェクト』のひとつで、昨年度から、観光協会や飲食店組合、行政などが、一体となって事業展開をしてきた。

本年度は、主に広報展開を実施し、TV・新聞などマスコミへの周知や、町外のイベントなどで、『西能登おもてなし井』をアピール。同時に、「おもてなし」の具現化を学び・検討・推進する研修会や、「アドバイス&



今年度で作成した総合パンフレット



撮影会」などを実施して、推進する事業者の意識向上を図った。

昨年比べて、事業を展開する店舗数は8軒から18軒に増加し、メニュー数は10から40に伸びた。事業効果は確実に現れてきている。

今年度作成された総合パンフレットでは、志賀町自慢の海産物や農作物などを盛り込んだ井を一品ずつ紹介している。

農家や漁家が、「おいしさの秘密」などを語って、志賀町の食材をアピールするなど、読み物としても楽しめる内容だ。

今年、北陸新幹線の開業に合わせて、首都圏からの多くの観光客が来町することが期待される。志賀町は、この『西能登おもてなし井』とともに、さらなる知名度アップを目指している。

福 島デスティネーションキャンペーンが始まる

福島県

デスティネーションキャンペーン（以下DC）とは、北海道から九州までのJRグループ旅客6社と、指定された自治体、地元の観光事業者等が協働で実施する、キャンペーンのこと。福島県の、PREDCはすでに昨年開始されているが、本番は4月1日から6月30日まで。県下各地で、様々なイベントや特別企画が催される。

昭和53年から始まったこのキャンペーンは、国内では最大級のもので、受地となる地元観光関係者と自治体側は、観光資源の掘り起こしや磨き上げ、地域イベントの開催、おもてなしの充実などの体制を整備し、JR側は開催地を全国に集中PRすることで全国からの送客を図るもの。福島県としては、東日本震災の復興のアピールと風評被害の払拭、観光素材の掘り起こしとブラッシュ

アップなどで「福島ファン」を増やすことや地域経済の活性化を目指す。これを機に、キャンペーン終了後も継続できる観光推進体制の確立を大きな目的としている。

具体的には、「福が満開、福のしま。」をキャッチコピーにかかげて、県全域をひとつのエリアとして展開、全県版の総合ガイドブックを大量に印刷するほか、「花」「温泉」「歴史・文化」「人」などテーマごとに全県を楽しめる企画を実施する。

例えば、県内各地に隠された宝箱を探す体験型の宝探しゲームや、県内の花の名所のスタンプラリーなどから、『小原庄助のんびりプラン』と銘打ち、県内温泉施設約100ヶ所、「朝食・朝酒・朝湯」が楽しめるプランなどが企画されている。専用ホームページ <http://dc-fukushima.jp/> が開設されているので、さらに詳しい情報が取得できる。



「小原庄助のんびりプラン」のパンフレット



2015年4月～6月
ふくしまデスティネーション
キャンペーン開催